

まつもと じゅん  
**松本純**

中区・磯子区・金沢区  
**まちかど  
政治版**

平成17年 5月1日号  
発行 かながわ1区支部  
編集長 平木 茂



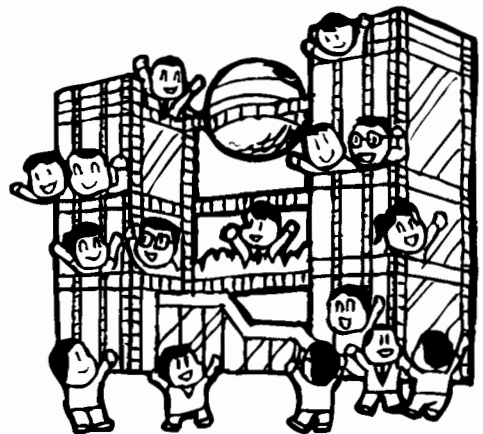
松本純  
ゴルフ大会

5月号  
2005年  
No.27

松本純ホームページ 毎日更新中! [http:// www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp) ▶検索キーワード「松本純」

## 「会社は株主のもの」は、本当でしょうか? ホリエモン騒動が私たちに考えさせたものは

ニッポン放送をめぐるフジテレビとライブドアの攻防戦は、両社の和解で決着しましたが、ライブドア・堀江貴文社長の言動には賛否両論が渦巻きました。堀江社長の行動を支持したのは、若い人が多かったようです。古い日本型経営と大人たちの支配に閉塞感を抱く若者たちには、32歳の堀江社長の言動が「社会に風穴をあける」と映ったのでしょう。一方、大人たちは「土足で人の家に上がりこんで“仲よくしよう”はないだろう」という強い拒否感を示しました。



堀江社長は「会社は株主のもの」という資本の論理を展開しました。これについて、テレビや新聞では多くの識者が「資本主義社会では当然」とコメントしました。アメリカで相次いだ企業買収は冷厳なこの論理によって行われた。それが国際的に開かれた証券市場であり、今回、あわてて法改正に動いた政府や「ホリエモン拒否」を決議したニッポン放送社員の姿は、あまりにも日本的な光景だ、と。

しかし、アメリカではこんな例もあったのです。2000年1月、オンライン企業であるAOLという会社が、有名な総合メディア企業のタイムワナーを買収しました。AOLを率いたのは、当時41歳のスティーブ・ケース会長。その若さといい、「インターネットとメディアの融合を目指す」という考えといい、堀江社長をほうふつとさせます。ところが、米国版ホリエモンのAOLタイムワナー支配は3年で破綻しました。勇躍新会社に乗りに込んだAOL出身者は、ついに旧タイムワナー社員たちとなじめず、その対立から新会社がうまく機能しなかったからです。

会社は確かに株主のものでしょうか。でも会社は、そこで汗して働く社員たちのものでもあり、その“商品”を支持する消費者のものでもあります。堀江社長はまた、「ネットはメディアを殺す」とも言いました。インターネットは便利で、仕事も生活もそれなしでは成り立たない時代になっています。しかし、ネット社会のひずみもすでに現れているのです。ネット社会は私たちに本当の幸せをもたらすのだろうか? 今回の騒動に注目しながら、そんなことを考えました。

## 松本議員の国会レポート⑱

平成17年

【3月29日(火)】

- 午前10時 ●松純会(中区石川打越地域後援会)  
国会見学
- 午前10時30分 ●市町村合併に関する決裁
- 午後0時45分 ●代議士会
- 午後1時 ●衆議院本会議
- 午後3時10分 ●衆議院総務委員会
- 午後4時30分 ●郵政改革に関する合同会議

【3月31日(木)】

- 午前10時10分 ●参議院文教科学委員会で答弁
- 正午 ●大勇会例会(郵政民営化について)
- 午後7時 ●七人の会

【4月13日(水)】

- 正午 ●自民党法務部会・人権問題等調査会  
合同会議
- 午後2時 ●郵政事業懇話会総会
- 午後4時30分 ●第4回電子政府・電子自治体推進  
本部

“オレオレ詐欺”は手口が多様化して、今は“振り込め詐欺”と呼ばれていますが、その防止に全力を尽くされているのが、神奈川2区選出の菅義偉議員です。この詐欺では使用者が特定できないプリペイド携帯電話が悪用されていますが、菅さんは事業者や代理店に携帯電話の契約締結・譲渡時に本人確認の義務を課す法案を議員立法で提案しました。この日は、菅さん自身が提案理由を説明し、質疑のあと全員賛成で可決されました。

文教科学委員会は私が政務官を務める総務省の担当委員会ではありませんが、この日の審議は総務省が進める三位一体改革に関連する義務教育費国庫負担金に関する野党の質問があるため、大臣に代わって答弁しました。私の答弁は「義務教育における国の責任は義務教育の大枠を法律で担保し、その財源を保障する」などでした。総務省はそれに関する財源を地方に移譲して、都道府県が行うべきだと考え、三位一体改革を進めています。

電子政府・電子自治体というのは、身近な例では「住基ネット」がありますが、国や地方自治体がネットを通じてサービスを提供するものです。現在、オンライン申請システムや電子入札、電子投票などに広がっています。この日出席した小尾敏夫・早大教授によると、電子政府に関する日本の国際的評価は「世界7位」という高評価の分野から「圏外」という分野までさまざま。論議を通じて利用者の側に立ったシステムの必要性を痛感しました。



▲振り込め詐欺”防止に全力を尽くす神奈川2区選出の菅議員



▲4/6 自民党金沢区連合支部大会で横田滋、早紀江ご夫妻を迎えて



▲3/22・磯子区肢体障害者福祉協会の皆さんを国会見学にお迎えて



▲4/1から中区に医療の新拠点「横浜立みなと赤十字病院」がスタートしました。

## 永田町日記 国を思う心は家族愛、郷土愛から出発して…



森田一議員

「年齢を加えるにつれて、日本の国が愛(いと)おいしいという気持ちが日に日に強くなっています。国を思う心は家族愛、郷土愛から出発して、それが一段昇華したものと感じています」。その言葉を聞いたとき、私は全身に鳥肌が立ちました。4月14日の衆議院本会議で衆議院在職25年表彰を受けた議員を代表して挨拶された森田一議員の言葉です。故大平正芳首相は森田さんの岳父ですが、昭和55年に大平さんが選挙中に急逝し、森田さんが後継者として立候補したときは投票日まで残り1週間。筆で「森田一」と書いただけのポスターを、運動員が泣きながら大平さんのポスターと差し替えたそうです。そんな大先輩の話に感動しました。(純)

まつもと じゅん プロフィール▶昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ▶本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師▶本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長など街づくりや地域活動に取り組む▶平成2年～横浜市議(3期)▶平成8年～衆議院総選挙で初当選。専門を生かし医療・福祉・年金などに全力投球。介護保険制度を創設した責任者の一人▶平成12年～総選挙で次点落選▶平成15年～衆議2期目。総務大臣政務官に就任。三位一体改革、行財政改革など新しい日本の国の形をつくるため奮闘中!